

NEWS RELEASE

2019年2月22日
株式会社ベジテック
カレンシーポート株式会社
株式会社三菱総合研究所

ブロックチェーン技術を活用した実証実験で、食品回収時の大幅な効率化 実現を確認

～食品回収までの時間を約 1/3 に短縮、回収対象品の量を約 1/180 に削減～

株式会社ベジテック(本社:神奈川県川崎市、代表取締役社長:遠矢康太郎、以下ベジテック)、カレンシーポート株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役 CEO:杉井 靖典、以下カレンシーポート)、株式会社三菱総合研究所(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:森崎孝、以下三菱総合研究所)は、アマゾンジャパン合同会社(以下 Amazon)、株式会社日本アクセス(以下日本アクセス)の両社の協力のもと、ブロックチェーン技術を活用した食品トレーサビリティプラットフォーム(以下、BC プラットフォーム)の実証実験を1月に行い、その結果概要を取りまとめました。

その結果、BC プラットフォームを活用した場合、従来方式と比較して、食品回収までの時間や、回収対象品の量を大幅に削減できることを確認しました。

当実証実験は、日本の食品流通の合理化・高度化を目的として、農林水産省補助事業「平成30年度食品流通合理化・新流通確立事業」を活用し、ベジテック、カレンシーポート、三菱総合研究所が新たに開発したBCプラットフォームを用いて、Amazon および日本アクセスの両社の食品サプライチェーンにおいて、実証実験期間中の実際の商取引に関する物流情報の書き込みや参照等を行ったものです。

当実証実験では、事故品が流通したと仮定し、事故品の特定と出荷停止、回収についてBCプラットフォームがある場合とない場合の比較検証を実施しました。その結果、BCプラットフォームがある場合は、BCプラットフォームがない場合に対し、商品の回収作業に要する時間をサプライチェーン全体で1/3(事業者によっては最大1/7)まで短縮、回収対象品の量は最大で約1/180に削減可能であることを確認できました。

今後も引き続き、日本の食品流通の合理化・高度化に向けて、BCプラットフォームの活用を検討してまいります。

【参考】実証実験の概要

- ①実証時期 : 2019年1月15日～1月25日
- ②対象品 : 青果物
- ③対象としたサプライチェーン : 以下の2ルートで実施。
 - 国内生産者 → 仲卸 → 小売 のルート
 - 海外生産 → 輸入商社 → 国内流通商社 のルート

④実証内容:

- 今回対象とした特定の青果物について、対象期間中に実際に行われる取引に合わせて、トレーサビリティ情報(生産者情報、生産履歴、流通履歴等)を各参加事業者が、今回開発した BC プラットフォーム上に記録、閲覧。
- 実証実験終了後に、各事業者が BC プラットフォームを利用した場合と利用しない場合で比較し、効果を検証。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社ベジテック

〒216-0012 神奈川県川崎市宮前区水沢 1-1-1

【内容に関するお問い合わせ】

統括本部 窓口: 梶山・金田

電話: 044-920-9902

メール: 梶山 (y.sugiyama@vegetech.co.jp) 金田 (h.kaneda@vegetech.co.jp)

【取材に関するお問い合わせ】

社長室 窓口: 溝尾

電話: 044-789-5192 メール: d.mizoo@vegetech.co.jp

本資料は、農林記者会、農政クラブおよび三菱総合研究所にてコンタクトのある記者の方々にもご案内しております。